

変えよう!
change
兵庫県

憲法が輝く兵庫県政をつくる会
第37号 2022年10月1日
HP・ツイッター
「兵庫・憲法県政の会」検索! 【部内資料】

県政は今どうなっているのか

「斎藤県政の1年を考える」シンポジウムを開催

「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」は9月18日、昨年の兵庫県知事選挙で初当選した「斎藤県政の1年を考える」シンポジウムを開催しました。

シンポジウムではコーディネーターの石川康宏代表幹事が問題提起を行い、その後、4人のパネリストが報告を行いました。

石川康宏代表幹事 問題提起

今日のシンポジウムでは、斎藤県政の1年を事実にとつて検証し、あわせて兵庫県政をながく支えた「オール与党」体制がどうなっているか、斎藤県政と維新の会の関係についても考えたい。

谷充弘

兵庫県高等学校教職員組合

今年2月の教育委員会議で、豊岡聴覚特別支援学校と出石特別支援学校との統廃合計画が発表されました。この統廃合は聴覚障害を持つ子どもに教育を受ける権利を奪うものとして、但馬地域の住民だけでなく、聴覚障害者団体なども署名運動に取り組み中で、計画を見直す方向で解決をみました。

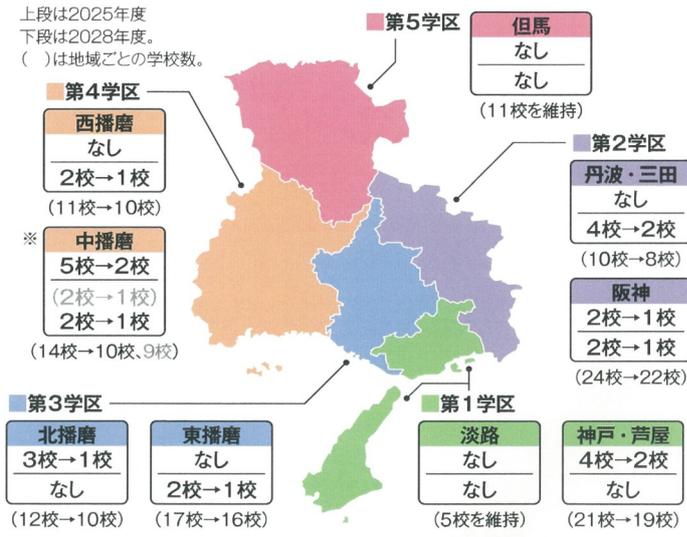
また、県教委は少子化を根拠に県立高校14校を25年に6校に統廃合する計画を7月に発表しました。これには20の自治体が住民説明会を要求するなど不安と戸惑いが広がっています。私達も、教育を受ける権利を奪われる子どもがでる、地域が衰退するなどの危惧から、地域住民の意見を聴く集会や署名に取り組んでいます。

武村義人

兵庫県保険医協会副理事長

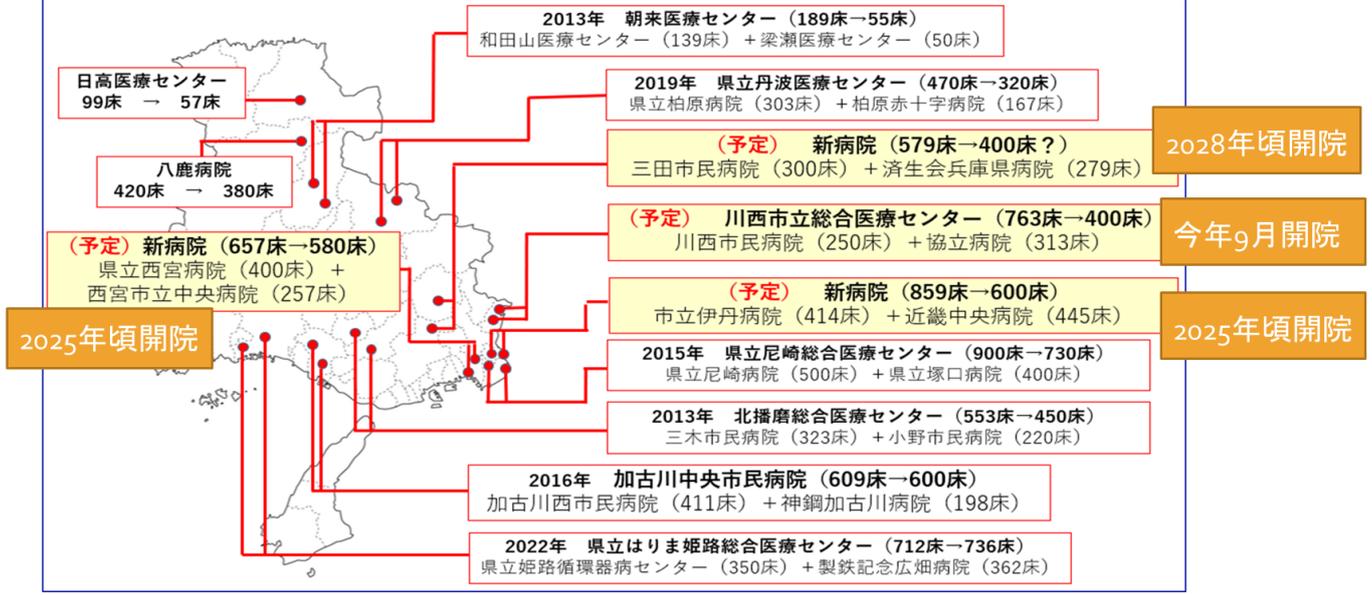
兵庫県は、感染症第3波の時点で高齢のコロナ患者の救急搬送を行わないことを決めましたが、介

県立高校の統廃合計画 図表は共産党県議団議会報告より



※第4学区(中播磨地域)の1組2校は、姫路市における市立高等学校の再編計画の検討状況を踏まえる必要があることから、2025年度の統廃合は実施せず、検討を継続。

兵庫県の病院統廃合計画



高校の統廃合計画を見直し、少人数学級の実現を

7月14日、突然、「県立高校14校を25年に『発展的統合』する」という計画が県教育委員会から発表されました。

子どもたちを通じて、A4裏表1枚のプリントが配布され、少子化を根拠としながら『発展的統合』（＝高校統廃合）をすすめることによって「魅力と活力のある高校づくり」ができるとの簡単な説明がありました。しかし、保護者・地域住民に全く説明もなく、疑問や不安に込めるものではありません。

この高校統廃合計画により、通学時間が長くなり、特に交通手段や通学費、学費の関係から、夢前高校や家島高校にしか通えない子どもたちには教育の機会を奪うことにもなります。また、それぞれの学校が積み重ねてきた伝統や特色から来る魅力に引かれて進学を目指してきた子どもたちの将来や夢を奪う結果となります。

その一例として「福崎高校と夢前高校、網干高校と姫路南高校と家島高校」が対象校となっています。福崎高校は、1914年に福崎村立実科女学校として、姫路南高校は、1925年に姫路市立商業補習学校として、開校され、今日まで地域に多くの人材を輩出してきた地域に愛されてきた学校です。1974年に夢前高校は福崎高校の分校から、1984年に家島高校は姫路東高校の分校からそれぞれ独立した高校となり、網干高校は1979年に開校された学校です。児童生徒の急増期で、高校進学希望者が増加している時期であり、保護者・地域住民を中心としたいわゆる「高校増設運動」が作った高校です。私たちは、統廃合計画は「県民の参画と協働の推進に関する条例」（2002年公布）に反し、住民参画もなく進められており、問題が大きいと考えています。

兵庫県は全国に先駆けて1992年に高校で48人学級を40人学級を導入した県です。そして現在は、小学校で35人学級が段階的に引き上げられていくことが国によって決められています。兵庫県も独自に小学校4年生まで35人学級としている他、県内のいくつかの市町では中学校での少人数学級もすすめられています。私たちは、高校での少人数学級をすすめることが、生徒たちへの教育環境をより一層改善していくことにつながると思っています。

私たちは、子どもや保護者・地域住民の意見が十分反映され、すべての子どもたちが、生き生きと学べる場を等しく保障されるよう、統廃合計画の見直しを強く求めます。



（「公立高校を考える会」の請願署名より）



岡田裕行 兵庫県自治体問題研究所事務局長

この4月、県は5部から12部に組織を再編し、新設した財務部の部長を総務省から招へいしました。財政を知事・財務部長が押さえることによって全庁をコントロールしようとする姿勢かと思われま

知事は選挙時に「総務省出身、市町のことをよく知っている」とアピールしましたが、市町の予算編成時に一方的に補助金等をカットしようとしたことで批判を浴びました。また、県の財政基金30億円を100億円に積み増そうとしており、さらなる住民サービス削減が懸念されます。斎藤知事の政治姿勢は、国・総務省からみ

れば「優等生」。独自の政治哲学は感じられず、選挙公約の軽さが見受けられます。

日本共産党兵庫県議会議員 きた結

斎藤県政は井戸県政を継承し、さらに悪い方向に進めています。県「行革」の延長と言え「県政改革方針」で、障害者小規模作業所援護事業、100歳高齢者祝福事業などの県民サービスを廃止・見直しする一方、各種の臨海地域道路などは進め、上限のない大企業誘致補助金も続けています。感染症対応では、無料PCR検査の先延ばし、高齢者施設での留め置きなどで人口比死者数はワースト2位となりました。小中学校での30人学級、女性副知事登用など

切実な県民要求が実現 これだけの多くの成果は近年 になく、世論と運動の成果！



- 神戸市以外の中学で選択制35人学級
- 高齢者の補聴器購入補助モデル事業
- 国民健康保険の未就学児の均等割り減免
- 芦屋保健所廃止が凍結・当面存続
- 県立学校のトイレに生理用品設置
- DV被害者の県営住宅入居要件緩和
- 受験生を狙った痴漢対策が大きく前進

シンポジウムは、質疑の後、最後に、石川康宏代表幹事がまとめ報告、津川知久代表幹事が閉会挨拶を行いました。

石川康宏代表幹事 まとめ報告

今後も県政を考える企画を継続したい。動画配信も行っていく。県内の多くの知恵を政治にかえることに生かしたい。こんな兵庫にしたいという社会のビジョンを示していくことも大切。

津川知久代表幹事 閉会挨拶

斎藤兵庫県知事が「国葬」参列を表明している問題で、「兵庫革新懇」は9月16日、知事に対し申し入れを行いました。県の当

の公約違反も顕著です。兵庫県議会では、金沢氏を推した自民党派、立憲・国民などの会派「ひょうご県民連合」は議案に全て賛成し、「オール与党」が継続しています。

こうした中でも、中学の選択制35人学級、高齢者の補聴器購入補助モデル事業、芦屋保健所廃止の凍結など、県民の世論と運動が成果をあげています。

斎藤知事「国葬」参列の当日 神戸大丸前などで抗議行動



参加者からは「県政の実態が良く理解できた」「市町は県との関係が大きいので定期的に学ぶ機会を」「ジェンダー平等を前に進める企画を望みます」などの感想、要望が寄せられました。

シンポジウムの各報告は、井戸県政を継承している斎藤県政の1年を明らかにしました。

また、県議会「オール与党」の継続は、21年知事選挙が金沢、斎藤の両候補が「継承」と「刷新」で争ったようなものではなく、二人の間には、井戸県政に対する評価でも、今後に向けた政策でも大きな違いがなかったことを如実に示したものだといえます。

「維新」会派が知事選時の8人から、その後、他の選挙への立候補などにより4人に減っていることも報告されました。斎藤知事を推薦した政党の県議団として、そもそも知事を支えていく政治姿勢であったのが問われるといえます。

局長は最後まで「県民を代表して」とは言えず、「県を代表して」との曖昧な言葉に終始しました。